



よ ば てんびょう 四つ葉点描

きょういくもくひょう 教育目標 「美しく生きる」



四日市市立中部中学校

令和6年2月29日

第25号

すてき そつぎょうしき
素敵な卒業式にしようね。

美しく生きるを問い続けよう



いよいよ 3年生の卒業が目前となりました。3年生は、「自律」と「多様性」の実現に向け、意識を高く持って学校生活を送ってくれました。ありがとう！残り少ない中部中学校の生活ですが、下級生のキャリア・モデルとして、最後の日まで良い影響を与えてくれることを望んでいます。

傍観者効果という罠



個人の自由や個人の幸せに注目が集まる世の中です。私も、映画や美術展等、一人で行くことが多くなりました。最近では、買い物も一人で行くかな。「他人に気を使わなくてもいい」のが大きな理由です。とはいえ、「周囲に気を使う必要がない」のではありませんね。（空気を読むという意味ではなく、気遣いという意味で。）



希薄な人間関係は、社会生活を乾いたものにしてしまいます。「周囲の困り感に気づかない、気づけない」、「気づいたとしても関わらない」と、なってしまうのは危険です。

そんな危うい社会で問題となっているのが、「傍観者効果」です。

簡単に言うと、緊急事態や争いが起こった時、そこにいる人が多ければ多いほど、その事態に関われない・・・という現象です。例えば、救急車を呼ばなければならない時、「誰か救急車を呼んで！」と叫んでも、誰も行動を起こさないことです。このようなことは、学校ではよくある話です。ゴミが落ちていて「誰か捨てておいて」と言っても、誰も拾わない。黒板がまぶしくても、誰もカーテンを閉めない・・・などなど。

いじめ問題も同様で、集団の中では、当事者以外が傍観者となり、誰も関わろうとしないのです。

集団になると関われないという皮肉



ある研究によると、人助けをしようという気持ちは、周囲の存在によって抑えられてしまうそうです。

これは、「冷たい人」が集まっているからではなく、他人の目が気になって動けなくなるから・・・と考えられています。教室のように、たくさんの方がいる空間で、誰も「正しいこと」ができない、「助けること」ができない・・・のが、ある意味「当たり前」になっているのなら、それは怖いことです。だって、安心感がないもんね。

別の見方をすれば、集団の中では、「行動を起こさないこと」で責任が分散されるのです。見ているのが自分一人ならば、助けなかった責任は自分にある。しかし、集団の場合は、自分だけが悪いんじゃないと自分に言い訳ができます。（ボクだけじゃない。みんなもやっている。というセリフを言ったことありませんか？）

これからも「美しく生きる」



残念なことに、学校は「傍観者効果」が高い空間であるようです。それを打ち破り、正しい行動ができるには、「傍観者効果」に負けない（つまり、周囲に流されない）自分の判断軸を持つ必要があります。

それが、「美しく生きる」です。

3年生は、4月からの新しい集団生活の中で、どのように振舞うのが試されます。ぜひ、中部中学校の教育目標である「美しく生きる」とは、どういう行動なのか、常に問い続けてほしい。そう願っています。

ちょっと早いけど、卒業おめでとう。世の中に合わせるだけでなく、新しい世の中を創るひとであれ！



大成功に終わりました。第2回を望む声多し。
運動系や演芸系など、あなたの特技を見せてくれ！！

生徒会が温めに温め準備を進めてきた第1回特技発表会が、大盛況で終わりました。ステージと会場が一体となって盛り上がり、生徒主体の取り組みのパワーを改めて感じました。中部中の未来は明るい！ご参観いただいた方々、ありがとうございました。

